

- 《 図面-No. 1 》
センター南側入口～
（都筑中央公園）～渋沢橋
- 《 図面-No. 2 》
渋沢橋～（鴨池公園）～ささぶね橋
- 《 図面-No. 3 》
ささぶね橋～御影橋
- 《 図面-No. 4 》
御影橋～（葛ヶ谷公園）
- 《 図面-No. 5 》
（葛ヶ谷公園）～ひょうたん池
- 《 図面-No. 6 》
ひょうたん池～（大原みねみち公園）

※公園は再整備範囲ではありません。



緑道再整備のコンセプト

当初の緑道の設計思想を最大限に尊重しつつ、変化する社会情勢に対応した緑道を目指します。

港北ニュータウンの緑道網は、利用者の受ける印象レベルから、都市環境への貢献まで様々な工夫がなされています。

- ◎地形を活かす ◎立体交差による連続性の確保と場面転換 ◎周辺環境に配慮した景観計画 ◎エッジレス
- ◎視点場を結ぶ有機的な意匠 ◎自然素材の多用 ◎デザイン性に優れた施設 ◎緑道を楽しむ仕掛け

一方、施設の老朽化やバリアフリー化、樹木の巨木化や過密化等が課題となっております。したがって、当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

開発以前

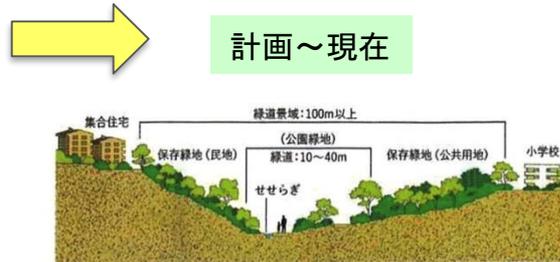


(ベース図出典：港北ニュータウンまちの成り立ちとルールづくりノ(株)山手総合計画研究所)

～港北ニュータウンのまちづくり方針～

- ・ 緑の環境を最大限保存する都市づくり
- ・ ‘ふるさと’をしのぼせる都市づくり
- ・ 安全なまちづくり
- ・ 高い水準のサービスが得られるまちづくり

計画～現在



(ベース図出典：港北ニュータウン公園と緑道の計画リーフレット)

～基本構想～ グリーンマトリックス

緑道を主骨格とし、集合住宅、学校、企業用地など大街区の斜面樹林や屋敷林など民有の緑の公園緑地などの公共の緑と束ねて連続させ、さらに歴史的遺産、水景などとも結合させて再構築し、地区全体の空間構成の要としたシステムです。

現在～将来



～ガイドラインの考え方～

- ・ 当初設計思想の継承
- ・ 利用形態の変化、社会的背景に対応
- ・ 市民参加

多様な利用形態による課題への再整備方針

空間イメージ



社会的背景、利用形態の変化による課題

ふるさとも感じさせる要素

- ①あぜ道 (土、石等) →
- ②谷戸を流れる小川 →
- ③樹林地 (屋敷林、雑木林) →
- ④一体的な土地利用 →

空間に読み替えられた要素

- ①土舗装、白河石舗装 →
- ②せせらぎ →
- ③保存緑地 →
- ④エッジレス 《付加機能》
 - ・手すり・車止め
 - ・ベンチ・サイン・照明

課題を踏まえた整備方針

- ①機能的かつ土を連想させる舗装、白河石の保存
- ②せせらぎの継承
- ③樹林地の再生
- ④エッジレスの継承 《付加機能の更新》
 - ・バリアフリー化、デザインの踏襲
 - ・機能性、景観性に配慮、LED化

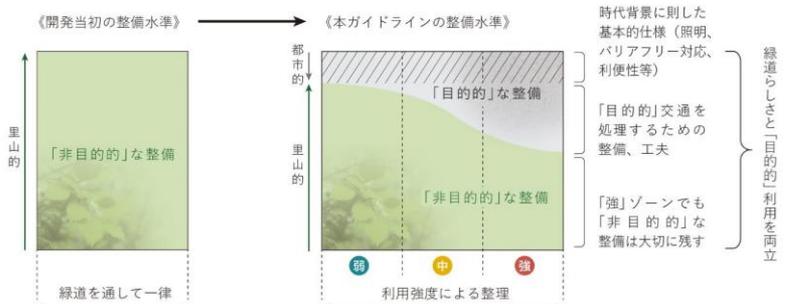
ゾーニング

多様な利用形態に対応するため、緑道が区民に果たす役割によってゾーニングし、それに応じた整備を行います。

当初の設計思想を損なわずに変化する社会情勢に対応させるための手法として、ゾーニングの考え方を導入します。

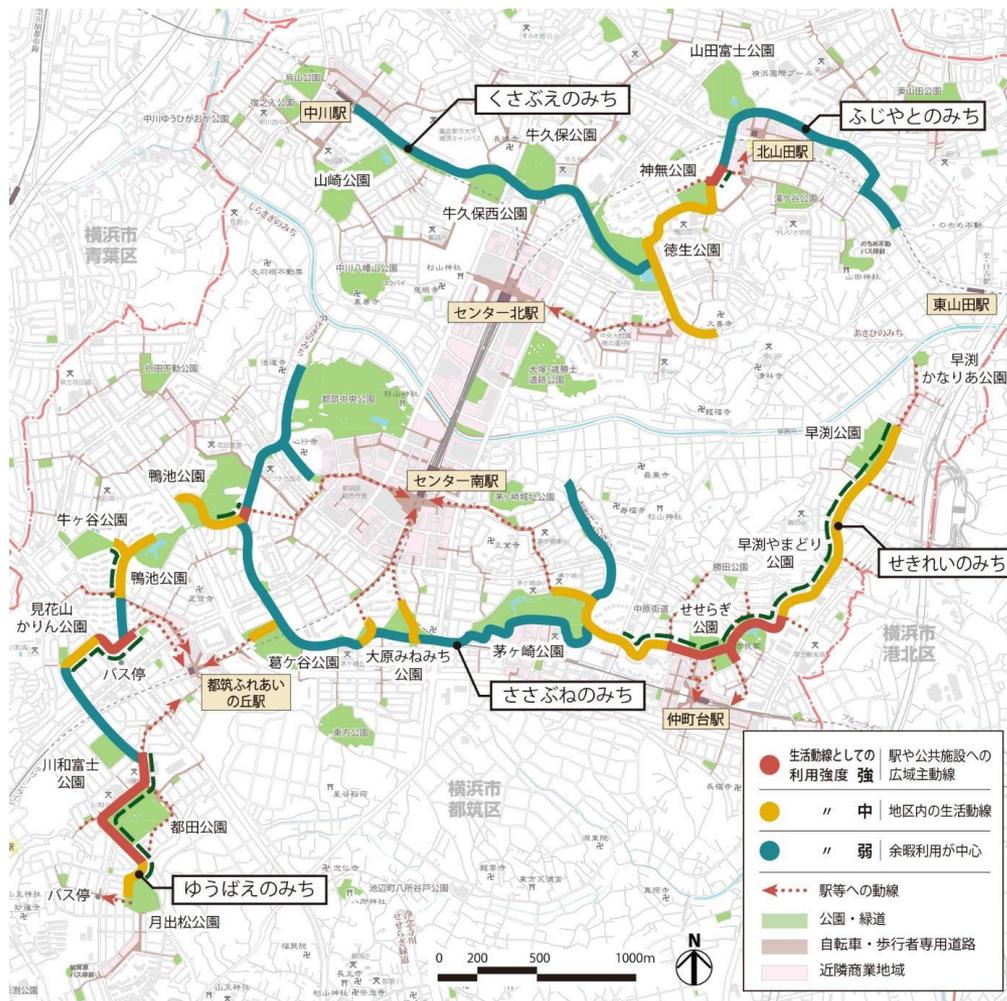
緑道には多様な利用形態とそれに応じたニーズが存在します。

そこで、特に整備内容に対する考え方に開きの大きい「生活動線としての利用強度」によるゾーニングを行い、それぞれのゾーンに応じた整備内容を定めます。



「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」と整備水準の考え方

※ふじやとのみち・くさぶえのみちについて東京都市大学丹羽研究室より研究データの提供を受けました



「生活動線としての利用頻度に基づくゾーニング」

水景施設

水景施設は、里山景観に欠かせない水辺を多様な素材と形態で創り出しています。園路と緑地をつなぐバッファーとしての機能や雨水処理機能、生物多様性など複合的な機能を発揮できる配慮が必要です。

流れの水源と水供給方法

地下ポンプで葛ヶ谷公園のところから汲み上げて、流れに水を供給しています。



ポンプ

池の現況・管理方針

《現況》

- ・定期的に浚渫を行っており、アオミドロが減ってきています。
- ・水門を開けて水位を上げたことにより、水質改善がみられています。

《管理方針》

- ・水質悪化を抑制するため、カモやコイ等の生き物への餌やりは禁止とします。
- ・コイヘルペスがあるため持ち運びができないことから、外来種（コイ等）は駆除することを検討します。
- ・ヨシやオギ等の水生植物の形成により、水質が改善される事例もあるため、一部刈り残すことも検討します。



ひょうたん池

せせらぎの課題

樹木の巨木化、樹林の乾燥化等により、せせらぎ全体の水量の減少が考えられます。また、水路の老朽化も見られます。



当初の設計思想や仕様を活かした再整備を行なっていきます。

思想に準じた整備

【 植栽・土留め × 園路との一体化 】



【 せせらぎ・土留め × 園路との一体化 】



【 土舗装 】



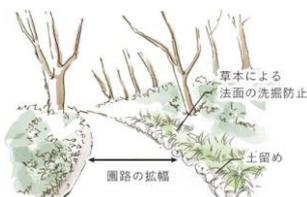
表土が流出し、砕石やガラが露出している場合は取り除く。

当初のものを残しながら修繕

【 石畳の風合い × スロープの滑り抑制 】



【 園路の拡幅 】



当初の仕様を改良

【 白河石舗装の目地 】



【 バリアフリー対応 × 環境との調和 】

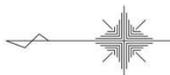


現況舗装材-凡例

脱色アスファルト	ピンコロ
土	コンクリート系
ダスト	黒アスファルト
石系	飛び平板

(表記)
 緑文字：既設施設
 赤文字：現況・課題
 青文字：整備内容(予定)

→ 改修検討区間
 → 新設ベンチ設置検討区間



■ 土壌流出の抑制



水切り土居木と粗朶柵を設置している事例（鴨池公園）

■ 園路上的コケの抑制



常緑樹を伐採し園路に光を入れたことで、園路のコケを抑制した事例（茅ヶ崎公園）

自転車通行抑制
 押し歩きサイン新設

土壌流出
 樹木を間伐して光を入れ下草を育成、土留めを設置

脱色アスファルト舗装剥離
 脱色アスファルト舗装更新

車止め：鑄鉄製

車止め：鑄鉄製

園路にコケ
 樹木を間伐して園路に光を入れる

滑りやすい
 滑り止め加工を検討

園路にコケ
 樹木を間伐して園路に光を入れる

自転車通行抑制
 押し歩きサイン新設

舗装2種類（土+平板）
 土地舗装は活かして残す

車止め：鑄鉄製

・自転車と歩行者が
 ぶつかりやすい
 押し歩きサイン新設

車止め：鑄鉄製

水溜り
 排水設備整備

ベンチ③（石製）
 ②～約31m

ベンチ④（石製）
 ①～約36m

ベンチ⑤（石製）
 ①～約36m

ベンチ⑥（石製）
 ③～約48m
 ④～約143m

ベンチ⑦（座面木製）
 ⑥～約48m

ベンチ⑧（石製）
 ⑥～約48m

ベンチ⑨（石製）
 ⑥～約48m

ベンチ⑩（石製）
 ⑥～約48m

ベンチ⑪（石製）
 ⑥～約48m

ベンチ⑫（石製）
 ⑥～約48m

■ 自転車通行抑制
 サイン新設・盤面更新



わかりやすい
 ピクトグラムのサイン
 (盤面イメージ)

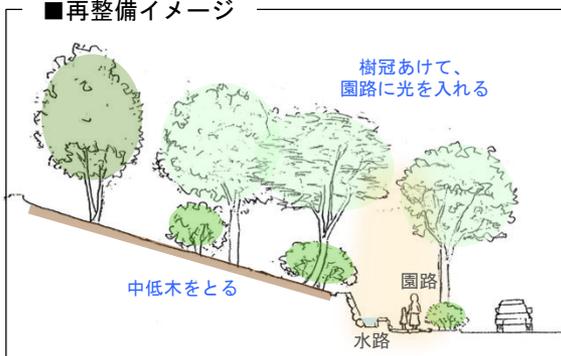
【 図面-No. 1区間 既設サイン・ベンチの設置状況 】

既設サイン・・・0箇所

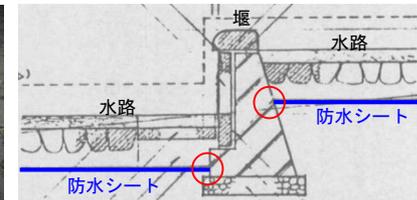
既設ベンチ・・・6箇所 (7基)
 設置間隔/最大約 188m
 最小約 31m



■再整備イメージ



■カスケード漏水の改修



■転落防止柵に更新



↑図面-No. 1



つづきの丘小学校
サイン①(立て看板) 盤面更新
水が汚れている 間伐材等を利用して、斜面からの土の流出を抑制する
柵 転落防止対応のものに更新
手すり バリアフリー対応に更新
ベンチ⑧(座面木製) ⑦～約45m

- ・カスケード漏水 冬期のアイスバーン
- ・園路に苔、コケ
- ・斜面の密林化
- ・カスケード改修
- ・樹木を間伐して園路に光を入れる

現況舗装材-凡例

脱色	ピンコロ
アスファルト	コンクリート系
土	黒アスファルト
ダスト	飛び平板
石系	

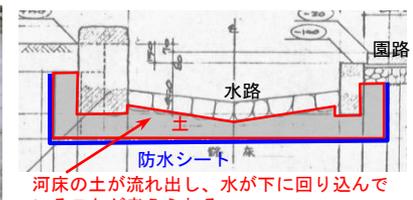
〈表記〉
緑文字：既設施設 赤文字：現況・課題 青文字：整備内容(予定)
→ 改修検討区間
⇄ 新設ベンチ設置検討区間

【 図面-No. 2区間 既設サイン・ベンチの設置状況 】

既設サイン・・・2箇所 (3基)

既設ベンチ・・・5箇所 (8基)
設置間隔/最大約 88m
最小約 37m

■水路の水量改善



舗装抜け 周囲と同一舗装にする

水路の水量減少 堰や河床の下を水が通っている可能性あり、堰や河床の打ち直し

図面-No. 3→

雨や雪上がりに自転車の転倒が多い 押し歩きのサイン新設
サイン②(立て看板) サイン③(車止め一体型) 盤面更新

ベンチ⑬⑭(石製) ⑬～約66m

ベンチ⑩⑪(石製) ⑩～約51m

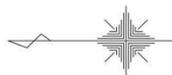
ベンチ⑫⑬(石製) ⑫～約37m

現況舗装材凡例

脱色アスファルト	ピンコロ
土	コンクリート系
ダスト	黒アスファルト
石系	飛び平板

(表記)
 緑文字：既設施設
 赤文字：現況・課題
 青文字：整備内容(予定)

→ 改修検討区間
 → 新設ベンチ設置検討区間



■護岸の改修



自然素材を利用したささぶねのみの水路護岸を復活させる



現状舗装材-凡例

脱色アスファルト	ピンコロ
土	コンクリート系
ダスト	黒アスファルト
石系	飛び平板

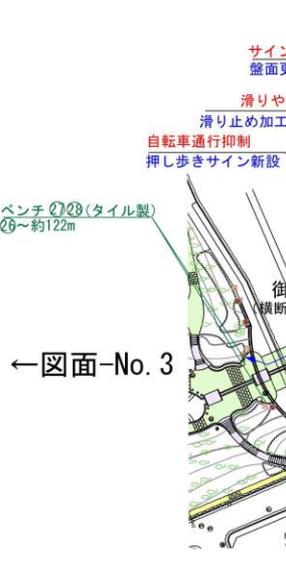
(表記)
 緑文字：既設施設
 赤文字：現状・課題
 青文字：整備内容（予定）

→ 改修検討区間
 → 新設ベンチ設置検討区間

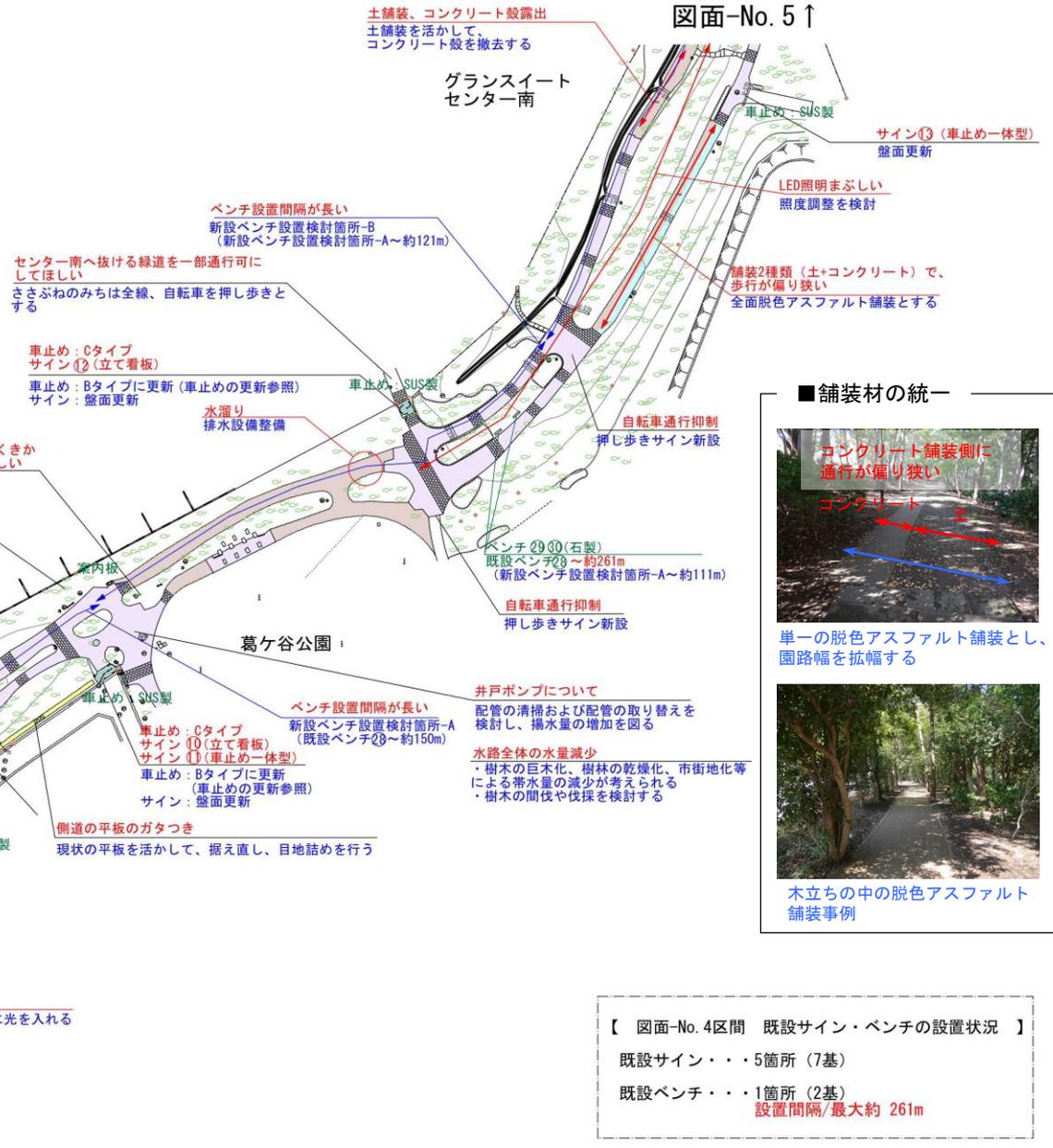
■住宅側の樹木の管理



ポイント伐りとは
 樹木の高さを抑えて、枝葉の発芽を促す。
 高さを下げた樹木から、低い位置で新しい枝葉が出ることで、日陰を作ったり、目隠しの効果が期待できる。



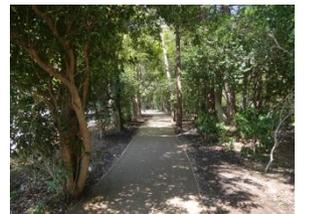
←図面-No. 3



■舗装材の統一



単一の脱色アスファルト舗装とし、園路幅を拡幅する



【 図面-No. 4区間 既設サイン・ベンチの設置状況 】

既設サイン・・・5箇所(7基)

既設ベンチ・・・1箇所(2基)
 設置間隔/最大約 261m

現況舗装材-凡例

脱色 アスファルト	ピンコロ
土	コンクリート系
ダスト	黒アスファルト
石系	飛び平板

（表記）
 緑文字：既設施設
 赤文字：現況・課題
 青文字：整備内容（予定）

→ 改修検討区間
 → 新設ベンチ設置検討区間



■高木の伐採、更新等



メゾンふじのき台

民有緑地

- ・萌芽更新予定
- ・境界の緑道側が見通しが悪い
- ・マンションの管理組合と方針を共有し、緑道側の樹木管理を行なっていく

サクラの斜木
樹勢に問題はないため残置とする

樹木の過高木化
高木の伐採、更新、危険木や枯損木の除去

ベンチ①⑧⑨（木製）
既設ベンチ③⑥～約362m
（新設ベンチ設置検討箇所-D～約193m）

大原みねみち公園

土舗装、ガラ露出
ダスト舗装に更新

ベンチ設置間隔が長い
新設ベンチ設置検討箇所-D
（新設ベンチ設置検討箇所-C～約169m）

土舗装、ガラ露出、水溜り
ダスト舗装に更新、排水設備整備

池の水質

- ・毎年浚渫を行い、水門を設置したことで、アオミドロの発生を抑制できている
- ・カモ等へのエサが水質悪化の原因となるため、エサやりを禁止とする
- ・ヨシやオギ等の抽水植物を一部残すことで、親水護岸にもなり、水質改善も期待できる

池の水質、コイへの餌やり

- ・カモやコイ等の生き物へ餌やりは禁止とする
- ・コイは水質悪化の原因にもなり、コイヘルペスを持っており移動させられないため、減らす必要がある。

■土舗装（ダスト舗装）へ更新



コンクリート殻の除去
※細粒度碎石（M-40）の舗装の検討も行う

ダスト舗装の更新した事例（ささぶねのみち）

【 図面-No. 6区間 既設サイン・ベンチの設置状況 】

既設サイン・・・1箇所（1基）

既設ベンチ・・・1箇所（3基）

設置間隔/最大約 362m